

平成 30 年度（第 1 回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 4 月 25 日（水） 14 時～15 時 40 分
 - 2 開催場所 青少年女性センター 4 階 大会議室
 - 3 出席委員 松尾委員、山口委員、熊谷委員、田上委員、後藤委員、柳谷委員、前川委員、
宰務委員、鹿多委員、望月委員、岡本委員（11 名）
 - 4 欠席委員 林委員、高瀬委員、和田委員
 - 5 出席職員 田淵教育長、大西教育指導部長、平田教育指導部次長、山本教育指導部参事、
福島社会教育・スポーツ振興課長、沼田文化財調査研究センター所長、
姫路少年自然の家所長、竹内中央図書館長、各公民館長（高橋館長、藤原館
長、竹内館長、鳥居館長、西村館長、田口館長、岡田館長、小田館長、荒木
館長、前田館長、奥野館長、籠谷館長）、神吉学校教育課長、今津青少年育
成課長、社会教育・スポーツ振興課（大山担当課長、川上副課長、尾崎地域
家庭教育係長、今井書記）
 - 6 傍聴者 0 名
 - 7 議事要旨
- 開会 14 時
委員長あいさつ、教育長あいさつ
 - 教育指導部長・次長・参事・各所属長・事務局自己紹介

（協議事項）

- 1 社会教育関係団体への補助金の交付について
（社会教育・スポーツ振興課副課長及び青少年育成課長より説明）
意見なし
- 2 平成 30 年度社会教育委員活動計画（案）について
（社会教育・スポーツ振興課地域家庭教育係長より説明）

（報告事項）

- 1 平成 30 年度各課事業の推進について
社会教育・スポーツ振興課、文化財調査研究センター、少年自然の家、中央図書館、
加古川公民館より説明

委員

公民館長について今年度多くの方が異動しているが、これは誰が決めているのか。

教育指導部長

いずれも退職等の補充である。また、退職者が一部の館にかたまと運営に支障が出るため、
経験者を異動させ、どの館も支障なく運営できるようにするという方針のもと異動を決めて
いる。

委員

経験者もたくさんいらっしゃるのでは問題ないと思うが、ある程度の年数いてくれる人を配置してほしい。

委員

加古川市には4つ図書館があると思うが、それぞれの図書館の関係はどうか。

中央図書館長

教育委員会が所管する加古川市立図書館は中央図書館と加古川図書館の2館で、ウェルネスパーク図書館と海洋文化センター図書室は市長部局が所管している。しかし、はじめまして絵本事業は4館交代で行うなど、図書館の運営は4館で連携して行っている。開館時間や休館日に違いがある。

委員

中央図書館であった学校図書館ボランティア養成講座に参加したことがある。その際、尾野先生の話をお聞かせいただき、本の読み聞かせ方は重要であると感じた。学校でも尾野先生のお話を聞かせいただく機会を持てたらいいと思う。学校図書館ボランティアの横のつながりが広がればよいと考える。

中央図書館長

図書館から小学校に開催を依頼するのは難しい。PTA等から図書館に出前講座の依頼があれば対応できるので、相談していただきたい。

委員

高齢者大学について、志方はモデル地区で再入学ができると聞いたが事実なのか。

志方公民館長

3月13日の段階で新入生が2名で高齢者大学の運営が困難になってしまうという状況だったため、1年間はモデルケースとして、再入学も可能とした。現在、新入生18名、再入学6名計24名となっている。

委員

学校図書館ボランティア養成に関することについて、募集や告知などの情報の発信はどのような形で行われているのか。社会福祉協議会のボランティアセンターに情報が来ていないようである。

中央図書館長

広報かこがわや図書館の広報紙、ホームページ等で広報を行ったり、学校関係の方々などへ直接声かけを行ったりしている。毎回定員以上の申し込みがある。

委員

少年自然の家の出張天体観測室について、町内会からの依頼でも来ていただけるのか。

少年自然の家所長

出張天体観測室は、平成26年度より、望遠鏡を持って地域に出かけるという趣旨で実施しているものである。町内会、PTAや少年団などの団体から依頼があればお受けしている。

学校教育課、青少年育成課、教育研究所より説明

委員

地元少年団に入らず、個人で少年団連合会に入っている人はいるのか。また、地元少年団に入っていない人はオセロ大会などの少年団連合会の行事に参加できないのか。

青少年育成課長

少年団に入っただけで少年団連合会への加入の前提となる。

さまざまな事業を展開しており、県の子ども会に加入することで保険に入ることができる。活動時の保険の関係もあるため、少年団に入っただけが前提となる。

委員

少年団が解散してしまった地域もある。オセロ大会などに出られないようになってしまっているのが残念。保険の関係があるためしかたないと思うが、そういったところにも心がけをしてほしい。

青少年育成課長

若い夢フェスティバルにはどなたも参加できる。安全なイベント開催を前提に検討していきたい。

委員

ふれあい保育について、以前は3歳からが対象であったが、今は、0歳から対象になっており、先生方にかかる負担を教育委員会にご存知か。

学校教育課長

0歳から受け入れているが、2歳が一番多くなっており、そのほかは3歳と4歳が主である。ふれあい保育の現場に行き、状況を把握していきたいと思う。

委員

ジュニアリーダーの育成について、昔はたくさんいたが、現在の状況はどうか。

青少年育成課長

中学生がジュニアリーダーとなっている。年によって、なり手の数に変動があり、安定したリーダーの育成が難しい状況であるが、毎年10数名がリーダーになっており、その方が高校、大学に進学されても活動を継続していつてもらえるものと期待している。

委員

昔だと少年団へ行ってキャンプの指導などを行っていたと思うが、今は連携しているのか。

青少年育成課長

現在は、団体内でキャンプを実施している。

委員

英語教育を推進しているが、日本の文化について、学校で教えられているのか。海外に行くと英語は話せても日本の文化を話せないという状況がある。

学校教育課長

道徳の時間に日本の文化について触れることとしており、外国のことを勉強することで自国を振り返るということも大切にしている。なお、平荘小学校の狂言発表会の内容について道徳の教材に入れたりするなど取り組みを進めている。

委員

子育てについて長い目で見て情報を仕入れ、判断していきたいと考えているが、短期的な情報やうわさレベルの情報しか手に入らない。公民館などで子育てを含めた教育全般の説明会を行ってほしい。

(その他)

なし

- 閉会 15時40分
副委員長あいさつ

以上